



## 子どもと自然

宇部こぐま保育園 園長 今井 玲子

ホースの口を指でおさえて水を噴き上げると、水は小さな玉になってお陽様の光にキラキラしながら落ちてくる。子どもたちは、その降り注ぐ水の玉を浴びながら、プールの中ではしゃぎまわる。ちょっと疲れて手を緩めると、「雨やって!」と、すぐに注文が飛ぶ。子どもたちははしゃぎながら、水の玉のきらめきや時には虹を見つけて感嘆の声をあげる。私は、その美しさを共有できたことで、心のどこかがとっぴりと満たされた感じになる。

この夏、小さな穴をあけた管からポトリポトリとしたり落ちる雫をじっと見つめている2歳の子がいた。身じろぎもせずに見つめ続けているので、管に送る水を少し増やしてみた。いくつもの水の玉が落ち始めると、しばらくして手のひらで水の玉を受け始めた。時間が経つにつれ、片手から両手になったり、頭を突き出して濡らしてみたりし始めた。



やぎとふれあい

したり落ちる水の玉に心を動かされたことで、その子の遊びはどんどん広がっていった。

そっと山の中にしゃがむと、草や葉っぱが見える。あれ、腐葉土へと変わっていく枯葉の土から小さな草の芽が出ている。ヒョロヒョロした白い根っこも見える。枯葉の上の小さな黒い点…動いているところを見ると虫か。肌の温度の変化と音で風を感じる。なんだろう、山の気配か?自分が見たり感じたりしているこれは何だろう?どうなっているの?

立ち上がってみたり、上を見上げてみたり、耳をそばだてたり、土を掘ってみたり。自然は不思議がいっぱいで、それを感じるともっと知りたくなって、もっと見たくなくて突き動かされていく。

そんなふうに、自然は子どもたちの興味を引き出す力を持っているのだ。

「センス・オブ・ワンダー = 神秘や不思議さに目を見張る感性」(レイチェル・カーソン)は、もともと子どもに備わっているのだという。自然を感じて遊ぶことは、その感性を育ててくれるに違いない。この感性を出発点にした思考やチャレンジは、子ども(人間)にとって確かなものであるはずだ。



さわでたんけん



## お知らせ

## 10月のイベント情報

(詳細は各主催団体へご連絡ください)

5日(土) こころの語り場 (要予約)

場所 / 宇部フロンティア大学キャンパス内

時間 / 13時 30分 ~ 15時 30分

主催 / うべ環境コミュニティー

後援 / 宇部市教育委員会

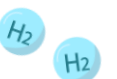


19日(土) まじめ川オープンカフェ

『ミクロの世界をのぞいて見よう!!』

『水素エネルギーモデル実証実験』

主催 / まじめ川ミズベリング実行委員会



## 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央」バス停 徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始(12月29日~1月3日)



HomePage



facebook



X



NPO法人うべ環境コミュニティー

# 「せかい！動物かんきょう会議in SDGs 未来都市UBE」の取り組み

株式会社ヌールエ デザイン総合研究所  
SDGsワークス事務局 柿沼 瑞穂

2018年に開始したこの取り組みは、宇部市が主催する次世代人材育成事業です。市内小・中学校の授業枠を使用して、子どもたちが、様々な動物キャラクターを演じながら地球環境の課題解決に向けた議論等を行います。他者の立場を理解し、多面的に考える力を身に付けられるワークショップです。その進行は「市民インストラクター」が担っています。

そのインストラクターは、環境やSDGsに関する知識と子どもたちの「気づきを促す」技術を学ぶ養成講座の受講が義務付けられていて、その後子どもたちとの対話に臨みます。大人と子どもの双方の人材育成になっている点が特徴的です。また、インストラクターは多様なバックグラウンドを持ち、それを活かしながら対話を盛り上げていきます。



私自身は、熱帯地域の農業を学んだことがきっかけで国際協力の分野で海外に関わってきました。しかし、途上国の子どもたちは貧しいけれども自分の考えをしっかりと発言し、行動力がありません。

一方で、多くの日本の子どもたちはその真逆であることに驚き、なんとか打破できないかと考えたことがきっかけになり、子どもたちとの対話を重視するこの事業に参加しました。

実際の現場では、インストラクターの進行次第で、のびのびと自分の考えを発言していく子どもたちが多くいるので、この事業に益々期待を寄せています。



今年で本事業は7年目を迎え、全体統括者のイアン筒井氏の指示を仰ぐものの、市と協力しながらインストラクターが中心となり運営ができるようになってきました。また、ときわ動物園という地域資源もあり、それを活用しながら教材作成を進めています。こうした地域資源を活用し自立型運営で進めていく方法は、「宇部モデル」と呼ばれ、東京、静岡、新潟、札幌や海外などから関心が寄せられています。

今後は、より多くの方に本事業について知っていただき、ご参加いただき、事の担い手としての仲間づくり、啓発活動にも注力していきたいと考えています。



## かたって銀天の今年度企画について

うべ環境コミュニティー 浮田正夫

世界的にいま人類は持続可能性の面から、かつてない難しい時期に瀕しているように思います。若い人達は鋭敏にそのことを感じたり、現在の教育システムになじめず、学校に行きたくなくなったり、今一つ生きる目的を掴みきれずにいる人も多いのではないのでしょうか。得体の知れない情報の洪水に流されがちな人もいます。

昨年度は残念ながら提案した6テーマのうち1テーマしか成立しませんでした。今年度は「こころの語り場」(薄井)、「持続可能な世界実現のために」(浮田)、「なんだか学校に行きたくない」(同左)、「高度情報社会をどう生きる」(盛重)、「動物の立場で人間のSDGsを考える」(益田)、「オープンマイクとSDGs語り場」(津島・大濱)の6テーマを用意し、募集中です。※( )は世話役です。

若い人達が自分の思っていることや意見を吐露しあい、互いに元気をもらったり、希望を見出して、それぞれ生きる意欲をもてるようになればと思います。

会場は様々になりますが、銀天エコプラザ2階の環境学習室がこれをきっかけに、そんな出会いの場所として有効に活用できればいいなと思います。

高度経済成長の時代に地方から大都市圏への人口移動が始まり、同時に核家族化が進行し、昔からの恵や大事な教えが、子ども達に伝わらなくなって二代目、三代目を迎えようとしています。世話役は

小中高校生にとっては祖父曾祖父の年代に近い人が多いですが、要望があれば、経験豊かな先輩から思わぬ知恵をいただけるかもしれません。とくに日本の未来にとってはこのような機会はとても大切です。皆さん関心のあるテーマを選んで、思い切って参加して下さい。

No.	日程	場所	テーマ	講師
No.1	10月5日(土)	宇部エコプラザ2F	こころの語り場	薄井 次郎 (宇部市教育委員会)
No.2A	12月14日(土) 21日(土)	銀天エコプラザ2F	持続可能な世界実現のために	浮田 正夫 (うべ環境コミュニティー)
No.2B	12月18日(日) 22日(日)	銀天エコプラザ2F	学校に行きたくない	筒井 英史 (宇部市教育委員会)
No.3	12月18日(日) 22日(日)	ライブハウス・MUSIC HOUSE MUSIC HOUSE 宇部	高度情報社会をどう生きる	盛重 寛文 (NPO法人SDGs推進センター)
No.4	11月23日(土) 24日(日)	銀天エコプラザ2F	動物の立場で人間のSDGsを考える	益田 文隆 (NPO法人SDGs推進センター)
No.5	2025年1月24日(日) 25日(月)	宇部環境学習室3F	オープンマイクとSDGs語り場	津島 大濱 (NPO法人SDGs推進センター)

「こんなのあるよ」と周りにも薦めていただければありがたいです。日程調整が遅れていますが、現在の所の内容は以下URLでご覧下さい。

[http://ubekuru.com/blog\\_view.php?id=6152](http://ubekuru.com/blog_view.php?id=6152)